

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成21年10月15日(2009.10.15)

【公表番号】特表2009-528104(P2009-528104A)

【公表日】平成21年8月6日(2009.8.6)

【年通号数】公開・登録公報2009-031

【出願番号】特願2008-556722(P2008-556722)

【国際特許分類】

A 43 B 13/02 (2006.01)

【F I】

A 43 B 13/02 A

【手続補正書】

【提出日】平成21年8月26日(2009.8.26)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

少なくとも一片の靴安定化材料(33)により構成された水蒸気透過性の遮断ユニット(35)であって、

該靴安定化材料が、第1繊維成分(2)と2つの繊維部分(4、5)を有する第2繊維成分(3)とを含む繊維複合材(1)を有し、

該第1繊維成分(2)が第1融解温度およびそれより低い第1軟化温度領域を、該第2繊維成分(3)の第2繊維部分(5)が第2融解温度およびそれより低い第2軟化温度領域を有し、該第1融解温度および該第1軟化温度領域が該第2融解温度および該第2軟化温度領域よりそれぞれ高く、

該第2繊維成分(3)の該第1繊維部分(4)の融解温度およびそれより低い軟化温度がそれぞれ該第2繊維部分(5)の対応温度より高く、

該繊維複合材(1)が、該第2軟化温度領域内に含まれる接着軟化温度での該第2繊維成分(3)の該第2繊維部分(5)の熱活性化により熱固化されるものの、その熱固化領域での水蒸気透過性は維持されたままであり、

該遮断ユニット(35)が、靴底複合材の厚さ全体に及ぶ少なくとも1つの通し空洞(31)を有する水蒸気透過性靴底複合材(105)の少なくとも一部として形成されており、該遮断ユニット(35)においては、該靴安定化材料(33)が、該靴底複合材(105)の構成後には異物が該少なくとも1つの通し空洞(31)を、したがって該靴底複合材(105)を、圧入通過するのを防止する遮断体として、該少なくとも1つの通し空洞(31)を閉鎖するように形成されている、遮断ユニット(35)。

【請求項2】

前記繊維複合材(1)が機械的に固化された不織布である、請求項1に記載の遮断ユニット(35)。

【請求項3】

少なくとも前記第2繊維成分(3)が心部/外郭構造を有していて、前記第2繊維部分が該外郭(5)を形成する、請求項1または2に記載の遮断ユニット(35)。

【請求項4】

靴安定化材料の厚さの少なくとも一部については熱固化されている、請求項1から3のいずれか一項に記載の遮断ユニット(35)。

【請求項 5】

靴安定化材料の厚さの少なくとも一部については熱固化されていて、少なくとも 1 つの表面については圧力および温度の作用により平滑に圧搾加工されている、請求項 1 から 4 のいずれか一項に記載の遮断ユニット (35)。

【請求項 6】

2 つの纖維成分を含む纖維複合材 (1) を有する遮断ユニット (35) であって、第 1 繊維成分 (2) がポリエスチルから成り、第 1 融解温度およびそれより低い第 1 軟化温度領域を有し、

第 2 繊維成分 (3) が心部 / 外郭構造をなし、該心部 (4) を形成するポリエスチルからなる第 1 繊維部分および該外郭 (5) を形成するポリエスチルからなる第 2 繊維部分を含み、

該第 2 繊維部分が第 2 融解温度およびそれより低い第 2 軟化温度領域を有し、該第 1 融解温度および該第 1 軟化温度領域が該第 2 融解温度および該第 2 軟化温度領域よりそれぞれ高く、

該第 1 繊維部分が該第 2 繊維部分より高い融解温度および高い軟化温度領域を有し、該纖維複合材 (1) が、該第 2 軟化温度領域内に含まれる接着軟化温度での該第 2 繊維成分 (3) の該第 2 繊維部分の熱活性化により熱固化されるものの、その熱固化領域での水蒸気透過性は維持されたままであり、

該纖維複合材 (1) が、その少なくとも 1 つの表面については圧力および温度の作用により圧搾処理されているニードル加工不織布である、遮断ユニット (35)。

【請求項 7】

少なくとも 1 つの安定化部材 (119) が、前記少なくとも一片の靴安定化材料 (33) に対応して配置されている、請求項 1 から 6 のいずれか一項に記載の遮断ユニット (35)。

【請求項 8】

前記安定化部材 (119) が、前記靴安定化材料 (33) の少なくとも 1 つの表面に配置され前記開口部 (135) の面を少なくとも部分的に横切る少なくとも 1 つの安定化帯材 (37) で構成されている、請求項 7 に記載の遮断ユニット (35)。

【請求項 9】

第 1 繊維成分 (2) と 2 つの纖維部分 (4、5) を有する第 2 繊維成分 (3) とを含む纖維複合材 (1) を有する靴安定化材料 (33) によって閉鎖された、靴底複合材の厚さ全体に及ぶ少なくとも 1 つの通し空洞 (31) を有する、靴製品用に形成された水蒸気透過性の靴底複合材 (105) であって、

該第 1 繊維成分 (2) が第 1 融解温度およびそれより低い第 1 軟化温度領域を、該第 2 繊維成分 (3) の第 2 繊維部分 (5) が第 2 融解温度およびそれより低い第 2 軟化温度領域を有し、

該第 1 融解温度および該第 1 軟化温度領域は該第 2 融解温度および該第 2 軟化温度領域よりそれぞれ高く、

該第 2 繊維成分 (3) の該第 1 繊維部分 (4) の融解温度およびそれより低い軟化温度がそれぞれ該第 2 繊維部分 (5) の対応温度より高く、

該纖維複合材 (1) が、該第 2 軟化温度領域内に含まれる接着軟化温度での該第 2 繊維成分 (3) の該第 2 繊維部分 (5) の熱活性化により熱固化されるものの、その熱固化領域での水蒸気透過性は維持されたままである、靴底複合材 (105)。

【請求項 10】

前記遮断ユニット (35) が請求項 1 から 8 のいずれか一項に従って形成されている、請求項 9 に記載の靴底複合材 (105)。

【請求項 11】

接地面 (153) を有する請求項 9 または 10 のいずれか一項に記載の靴底複合材 (105) であって、前記通し空洞または前記貫通開口部 (33a、33b、33c) の少なくとも 1 つの中に、前記靴安定化材料 (33) の接地面に向いた側から該接地面 (153)

) の水平面にまで及ぶ少なくとも 1 つ の支持要素 (151) が、歩行時に前記靴安定化材料 (33) が歩行面上で該支持要素 (151) によって支えられるように、前記靴安定化材料 (33) に対応して配置されている、靴底複合材 (105) 。

【請求項 12】

靴底側の靴甲末端領域 (219) に、防水性で水蒸気透過性の靴甲底部機能層 (247) が付与された靴甲 (103) を有する、請求項 9 から 11 のいずれか一項に記載の靴底複合材 (105) を有する靴製品であって、該靴甲底部機能層 (247) が、少なくとも前記少なくとも 1 つ の通し空洞 (31) の領域では前記靴安定化材料 (33) とは非結合になるように、前記靴底複合材 (105) が、該靴甲底部機能層 (247) の付与された該靴甲末端領域 (219) と結合している、靴製品。

【請求項 13】

前記靴甲 (103) が少なくとも一種の靴甲材で構成され、該靴甲材が、少なくとも靴底側の前記靴甲末端領域 (219) では防水性の靴甲機能層 (215) を有し、該靴甲機能層 (215) と前記靴甲底部機能層 (247) との間に防水性のパッキン材 (248) が存在する、請求項 12 に記載の靴製品。

【請求項 14】

請求項 9 から 11 のいずれか一項に記載の水蒸気透過性の靴底複合材 (105) と、靴底側の靴甲末端領域 (219) に防水性で水蒸気透過性の靴甲底部機能層 (247) が付与された靴甲 (103) とを有する靴製品の製造方法であって、

- a) 前記の靴底複合材 (105) および靴甲 (103) を用意する工程と、
- b) 前記靴甲 (103) の前記靴底側の靴甲末端領域 (219) に、防水性で水蒸気透過性の靴甲底部機能層 (247) を付与する工程と、
- c) 前記靴底複合材 (105) と前記靴甲底部機能層 (247) が付与された前記靴底側の靴甲末端領域 (219) とを、前記靴甲底部機能層 (247) が少なくとも前記少なくとも 1 つ の通し空洞 (31) の領域では前記靴安定化材料 (33) と非結合のままの状態であるように、互いに 結合させる工程と
を含む、靴製品の製造方法。

【請求項 15】

前記靴甲 (103) に靴甲機能層 (215) を付与し、該靴甲機能層 (215) と前記靴甲底部機能層 (247) との間で防水性の結合を形成する、請求項 14 に記載の方法。